



東久留米の近代史シリーズ5

武蔵野鉄道東久留米駅（12）

戦時下の東久留米駅・2

東久留米駅構外側線（中島航空金属田無製造所専用側線）の起点と境界石

構外側線は、東久留米駅の本線西側にあった貨車用側線の西隣りに新側線を敷設し、そこから分岐しました（図1 起点）。用地を売却した西川竹三氏の証言によれば、家（図1 左下の家屋）の前がすぐ線路で、蒸気機関車と貨車がいつも止まっていたそうです。また、近くに機関車給水用の井戸も掘られたそうです。

戦後、所有権の係争時に作成された物件目録によれば全長 2.84 km で、使用されたレール（鉄条）は長さ 10 m のものが 480 本、枕木 1,300 本、継目板 960 枚、犬釘 12,500 本、橋梁 2 組、分岐器 2 組等とされています（「東久留米駅構外側線物件目録」）。「中島航空金属専用側線新設工事設計図」（以下「設計図」）では東久留米駅の側線部（0m）を起点として全長 2.43 km となっており、物件目録と誤差がありますが、使用された機材数から推測して運用された構外側線の全長は「設計図」の数値と思われます（注1）。さらに、「設計図」には新設された構内側線の起点から北側部分が構外側線と同じ太線で描かれていることから、中島航空金属専用側線としてはこの構内側線の部分も含まれるものと考えられ、「設計図」には保線課長の押印もあることから、保線管理上の中島航空金属専用側線と起点からの構外側線の全長数値が異なる可能性も考慮されます（図1）。

また、構外側線敷設に際して、「設計図」の構内側線の一部が破線となっていることから、駅西側の構内側線の配線変更が行われた可能性もあり、今後検討が必要です（注2）。

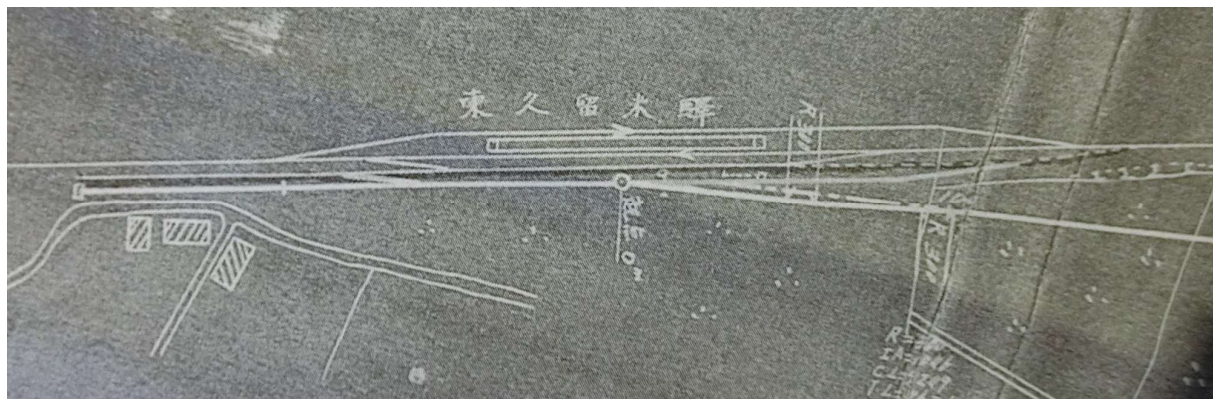


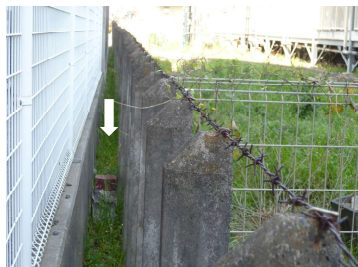
図1「東久留米駅中島航空金属株式会社専用側線新設工事設計図」・鉄道技術社
東久留米駅と構外側線起点付近の図面。

名取紀之氏提供



構内側線部境界石①

左：境界石、右：中島飛行機社章刻印



構内側線部境界石②

左：境界石、右：位置（右がホーム）



構内側線部境界石③

左：境界石、右：中島飛行機社章刻印

写真 1 中島航空金属田無製造所専用側線駅構内部分の境界石

①～③が専用側線の東久留米駅構内側線部で確認された中島飛行機の社章が上端に刻印された境界石。西武鉄道用地と民有地の境界部分に存在します。境界石は最上部が赤色塗装されているため、現在も境界標として機能しているものと思われます。2023 年撮影。

構外側線の敷設にあたっては、用地をほぼ全線にわたって中島航空金属が新たに専用側線用として購入したようですが、戦後、その所有権について西武鉄道と中島航空金属の後継会社である瑞穂産業との間で係争が続きました。

敷設用地は、当時の公図（西川竹三氏提供）によれば、特別な地域を除いて幅が 4 間（約 7.24m）と推測されます。東久留米駅部分については、公図と西川氏の証言から次の点が指摘されます。まず、当初の東久留米駅本線部分の用地幅員は 4 間で、その東側には待避線や貨物専用側線、駅舎用地として約 10 間（約 18.18 m）幅の用地が確保されていました。その後、1924 年（大正 13 年）に本線西側に糞尿積み下ろしの側線が新設され、約 4 間が拡幅されました。そして、1944 年（昭和 19 年）に構外側線の敷設に伴う西側の構内側線追加用地として 1～2 間が拡幅されたものと考えられます。

構外側線には、全線にわたって用地の境界を示す境界標（石製）が設置され、現在もその一部が残っています。「たての緑地」内の境界石については、現地に 11 本、市郷土資料室所蔵 1 本、古写真 1 本の計 13 本が確認され、本通信のNo.60 で紹介しました。また、駅の構内側線部分の境界石が新たに 3 本確認されました（写真 1①～③）。いずれも西武鉄道と民有地の境界部分に存在します。形状や石質、上端の中島飛行機株式会社社章の刻印が象徴的です。

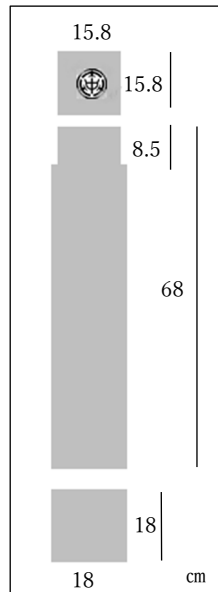


図 2 専用側線構内部分境界石位置
地図は国土地理院電子 web 淡色地図使用



中島飛行機株式会社の社章は、円の中央に「中」があり、周囲を抽象化した3機の飛行機が囲んでいます。

写真2・図3 市所蔵構外側線境界石



構外側線は、中島航空金属田無製造所への引き込み線ですが、中島飛行機株式会社の子会社であることから、境界標には上端に中島飛行機株式会社の社章が彫られた石杭が使用されています。

市の郷土資料室が所蔵している境界石の石質は御影石（花崗岩）で、白色を基調として小さな黒雲母を含んだ斑状組織となっています。長さ約 68 cm、幅約 18 cm の正四角柱に加工されており、最上部の長さ約 8.5 cm は約 16 cm 幅の正方形にやや細く造られているのが特徴です。その部分は形状や表面が入念に成形されており、かなり粗削りな加工痕が多く残っている本体部分と対照的です。上端の中央部には、長径 8 cm 程の中島飛行機株式会社の社章が彫られています（写真2・図3）。

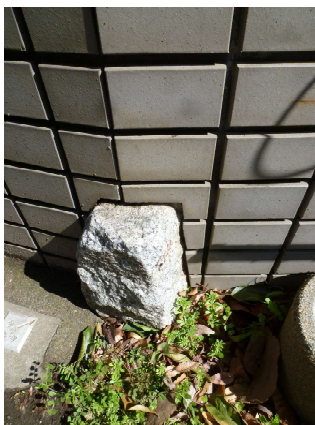


写真3

本町一丁目の境界石
公道と民家の塀部分に構外側線の境界石が残されています。
2023年撮影

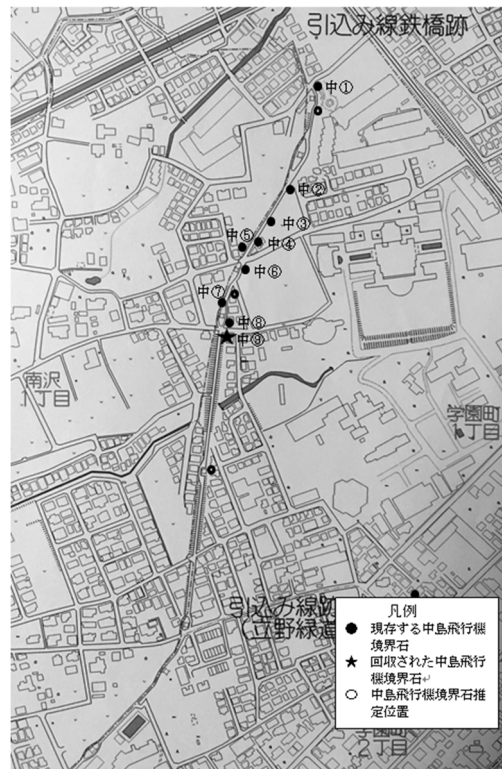


図4 「たての緑地」内の構外側線境界石

●は2021年の所在調査で確認された境界石、★は市郷土資料室所蔵境界石の位置。○は他の資料での所在推定位置。



④



⑥



⑦

写真4

「たての緑地」内の境界石
図4の④⑥⑦ 2021年撮影

近年の周辺地域の調査で、「たての緑地」以外の場所でも境界石が確認されています。例えば、駅の起点から南へ約 240m の本町1-6（西口中央公園）付近の公道と民家敷地の境界標として構外側線の境界石が残されており、さらに確認される可能性もあります（写真3）。「たての緑地」内の境界石所在確認調査は過去に3回行われ、現地にある境界石としては11本が確認されており（他に西武鉄道や「工」の彫刻境界石も存在します）、戦争遺跡としての中島航空金属田無製造所専用側線の実態解明の貴重な資料となります。

注1：吉川慎平「中島航空金属田無製造所専用側線の実態－歴史的遺構としての武蔵野鉄道東久留米駅構外側線」『生活大学』vol15・2020

注2：山崎丈『東久留米の戦争遺跡』市教育委員会刊・2019



寄贈写真資料の紹介・解説

『蘇民将来子孫之門とやいかがし（^{ひいらぎいわし} 柎 鰯）』

佐藤高氏（品川区文化財保護審議会委員）撮影
旧柳窪新田では、二月三日前後の節分（トシトリ）のとき、焼いた鰯の頭を魔除けとして柎に刺し、「蘇民将来子孫之門」と墨で書いた紙札をつけて飾る家もありました。「蘇民将来」は、疫病よけの神の名です。

参考資料：市教育委員会「東久留米の年中行事」P. 25

郷土資料室では、戦前～昭和 50 年頃までに東久留米市内で撮影された写真資料を収集しています。お心当たりがありましたら、下記までお問い合わせください。

🌟 📖 📅 📌 第37回多摩郷土誌フェアに参加しました 📌 📅 📖 🌟

令和7年1月18日(土)・19日(日)、立川市柴崎学習館にて行われた第37回多摩郷土誌フェアに参加しました。多摩地域の市町が一堂に会して刊行物の展示や頒布を行う年に一度のイベントで、今回は会場を変更しての開催でしたが、来場者は前年よりも多く、延べ 841 名の方にお越しいただきました。

東久留米市のブースでは、人気シリーズである歴史ライブラリーの表紙を使用した、新しい看板パネルの設置を行いました。今回は特に「東久留米の古地図」の注目度が高く、「明治時代地引絵図」とあわせてご覧になる方が多くいらっしゃいました。また、東久留米のあゆみシリーズもたくさんの方に手に取っていただき、この度「東久留米の江戸時代」が完売となりました。

東久留米市の刊行物について、くわしくは市ホームページでもご確認いただけます。「くるめの文化財」と「郷土資料室通信(60号以降)」は PDF でも公開しておりますので、ぜひご利用ください。



編集・発行

東久留米市郷土資料室（東久留米市教育委員会生涯学習課文化財係）

203-0033 東京都東久留米市滝山 4 - 3 - 14 東久留米市わくわく健康プラザ内

電話 042-472-0051 無断転載はしないでください